

## HFpEF 症例における左房ストレインの臨床的有用性の検討

金沢市立病院 臨床検査室 山田 奈津

### 【要約】

我が国では高齢化に伴い心不全が増加しており、特に左室駆出率が保たれた心不全(HFpEF)の割合が増加している。HFpEFは年齢や併存疾患、肥満など非心血管系の異常が混在する複雑な病態であり、非侵襲的かつ簡便に評価可能な心機能指標の確立が求められている。本研究では、左房機能評価指標である左房ストレインの有用性を検討した。当院で施行された心エコー図検査724件のうち、左室駆出率50%以上かつ左房ストレイン解析が可能であった159件を対象とし、H2FPEFscoreと比較検討した。結果、左房ストレインはH2FPEFscoreと有意な負の相関( $r=-0.535$ )を示し、HFpEF群では対照群に比べ有意に低値であった。ROC解析ではAUC=0.927と高い識別能を示した。左房ストレインはHFpEF診断における簡便かつ実臨床に即した補助診断指標となり得ることが示唆された。